



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>						
建物名称	(仮称)シャリエ中土狩狭間計画	BEE	1.7	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6	/5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.3	/5		ふつう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5		ふつう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0	/5		ふつう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例 4 点以上	3 点以上	3 点未満	がんばろう

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.6
<p><b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b></p> <p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)                      ①複層ガラス、熱伝導率の低い断熱材を採用。                      ③カーテン及び上階バルコニーにて庇を形成し昼光を制御。                      ④劣化対策等級3を満足。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)                      ⑤多くの樹種を植栽し、自生種の保全に配慮する外構植栽計画を行った。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)                      ⑦複層ガラス、熱伝導率の低い断熱材を採用。                      ⑨LED照明の採用。節湯器具の導入。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)                      ⑬ノンフロン断熱材を採用。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)                      ⑭省エネルギー対策を行っている。                      ⑮隣棟間隔指標を1.0以上とした。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	3.6	
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)                      ⑯基準法の1.25倍の耐震性を確保している。                      ⑰耐震クラスAを設定。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備	3.3
	<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)                      ⑳階高2.96m以上確保している。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)                      ㉑中庭を設置して中間領域を形成し、快適性の向上に配慮した。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.0
	<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上)                      ㉓多くの樹種を植栽し、自生種の保全に配慮する外構植栽計画を行った。                      ㉒街並み調和させ、近隣からの見え方の検証、緑地の設置により良好な景観を形成させた。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善)                      ⑮隣棟間隔指標を1.0以上とした。</p>	Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出 2 ㉒ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ㉓ 敷地内温熱環境の向上 LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	3.0

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)シャリエ中土狩狭間計画	階数	地上12F
建設地	静岡県駿東郡長泉町中土狩狭間	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	376人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年5月27日
敷地面積	3,826㎡	作成者	荒井 宏
建築面積	956㎡	確認日	
延床面積	7,951㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.7</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 76%</p> <p>③上記+②以外の 76%</p> <p>④上記+ 76%</p> <p>46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・92㎡)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p>Qのスコア = 3.4</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア = 3.5</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア = 3.4</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア = 3.1</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p>LRのスコア = 3.5</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア = 4.2</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア = 3.0</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>これはCASBEE静岡(2016年版)による評価です。</p>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>・全面的にF☆☆☆☆の建材を採用し空気質環境に配慮する。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>・基準法の1.25倍の耐震性を確保し、建物の耐用性に配慮する。</p> <p>・耐用年数の長い配管材料を採用し、建物の耐用性に配慮する。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>・多くの樹種、樹木を植栽し温熱環境や生物環境の保全に配慮する。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>・複層ガラスや熱伝導率の低い断熱材を採用し、高断熱とし、外皮性能に配慮する。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>・A種の断熱材を採用し、フロンの使用をしないよう配慮する。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>・多くの樹木を植栽し温熱環境に配慮する。</p> <p>・広告物照明の設置はせず、光害の抑制に配慮する。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される